

午前7時、山梨県立中央病院に勤務する看護師の女性が院内託児所に子どもを預け、出勤。午後5時、女性の夫で看護師の男性が夜勤明けに同託児所に子どもを引き取りに行き、帰宅。同6時には女性も仕事を終え、家族団らんの時間を過ごした。

やまなし  
医療最前線  
安心して産み育てる  
県立中央病院から

〈178〉

制を充実させている。

夏目康行さん(34)と可南子さん(31)夫妻は、共に同病院看護局に所属する看護師。2人は県内の大学で出会い、可南子さんの就職3年目に結婚。現在、6歳、3歳、1歳の男

児3人を育てる。

可南子さんはそれぞれの子どもの出産1カ月半前まで働き、育児休業を1年間取得。子どもが1歳のとき、院内託児所に預けて職場復帰した。

夏目さん夫妻は2人とも県外出身。実家が離れているため普段の子育てに親の協力は得られないが、夜勤の日が重ならないように調整するなどして仕事を続けている。

院内託児所は病院職員の子どもを

の急な発熱などで早退する必要があらるときは、上司に相談するとすぐに調整してもらえた。「職場の理解があるので、安心して働かせてもらっている」

総務課によると、職員の育児取得件数は年々増加傾向にある。年ごとの増減はあるが、2019年4月1日時点では31人で、13年同時点に比べて9人増えている。

## 仕事と家庭両立

## 子育て世代の職員を支援

医師、看護師、事務職など計約70人が勤務している県立中央病院。そのうち7割が女性だ。同病院では職員が子どもを産み、育てながら、仕事と両立できるように支援体

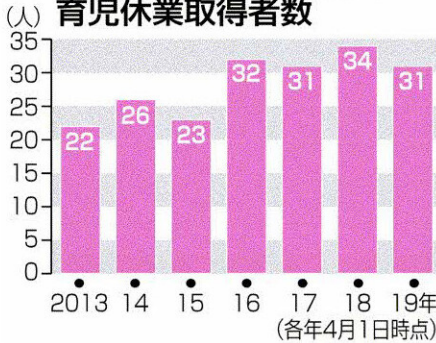


夏目可南子  
看護師



夏目 康行  
看護師

### 山梨県立中央病院職員の 育児休業取得者数



対象に開設。月、水、金曜の夜は宿泊保育にも対応している。宿泊保育を実際に利用することはなかったが、「いざというときに預けられる安心感があった」という。

そのほか、子どもが1歳半まで時短勤務ができ、院内で病児保育にも対応している。可南子さんは「用意されている制度を利用することで、子育てと仕事の両立を無理せずやっつけてこられた」と振り返る。子ども

かなくなった。県民が安心・安全に産み、育てる環境を守っている同病院。「働いている私たち職員の子育て環境が充実しているのは大事なことだと思

可南子さんは「今は子どもの成長を見守りながら働きたい」と希望し、夜勤がほぼない内視鏡センターへの異動が

は終了します」

第2、4木曜日に掲載します(安心して産み育てる)シリーズ